生命保険協会の取組み

2020年3月10日



○ 今年度、生命保険業界の気候変動対応の底上げを図るべく、 気候変動対応の基礎がわかるハンドブックを作成・公表



『はじめての気候変動対応ハンドブック ~生命保険業界への影響と考えるべきこと~』

目次

- I なぜ気候変動が今大事なのか
- Ⅱ 気候変動はどういう業種にどんな影響があるか
- Ⅲ 気候変動は生命保険会社にどんな影響があるか
- IV 世界は何を考えどう動いているのか
- V TCFD提言を理解しよう
- VI TCFDの開示事例
- VII TCFDを踏まえ、 生命保険会社は何を考えなければならないのか

○ 今年度、集団的エンゲージメントにて、「気候変動の情報開示の充実」を要望

株式市場の活性化

持続可能な社会の実現

株主還元の充実

対象企業:上場企業67社

<u>財務内容が健全</u>で、営業CFに対する <u>投資CFの比率が低く</u>、長期に亘り<u>配</u> 当性向が30%未満の企業

ESG情報の開示充実

対象企業:上場企業65社

時価総額上位300社のうち、<u>財務情報と非財務情報の統合的な開示等</u> を行っていない企業

気候変動の情報開示促進

対象企業:上場企業17社

温室効果ガス排出量の多い企業のうち、<u>気候変動に関する情報開示方針</u>等の確認が必要な企業

書簡送付・対話等を通じた趣旨説明

スチュワードシップ 活動WG (生保11社)



いかんぽ生命











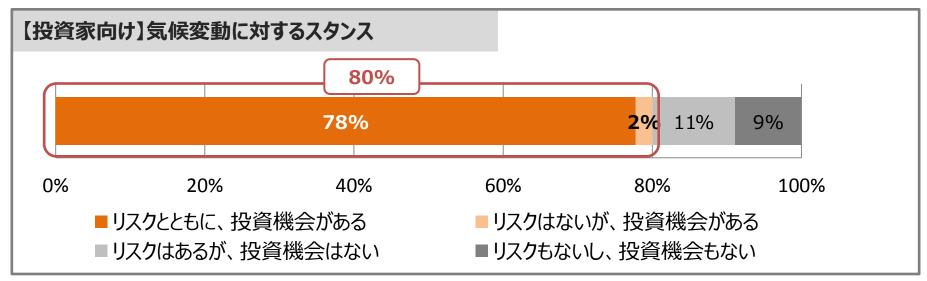


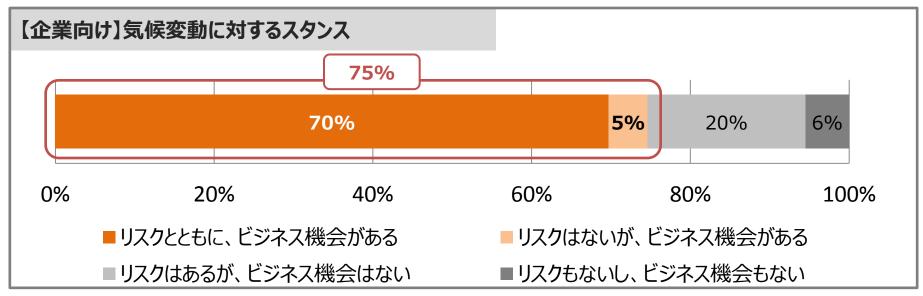






○ 投資家、企業ともに、気候変動問題をチャンスとして前向きに捉えている姿勢





○ 他方で、気候変動関連の情報の開示や活用は今後の解題

